

平成26年度家庭科教育にかかわる現状と課題

部長 輪倉 篤子

1 家庭科教育の動向

(1) 授業実践に基づく研究

【上越地区】では、「食に関する指導の工夫や授業改善」を主題に、糸魚川市立能生小学校の大澤雅士教諭が「おいしいね 毎日の食事」の授業を大竹瞳栄養教諭の協力で公開した。5種類のだし汁と4種類のみその組み合わせの味比べを行った後、「味の違い」や「おいしさ」について意見交換を行った。

【中越地区】では、「よりよい生活を創り出す児童を育成するための授業改善」を主題に、長岡市立栖吉小学校の竹垣有子教諭が「元気な毎日と食べ物」の授業公開を行った。外山美奈栄養教諭の普段の献立作りで配慮している話を聞いたことで、児童の考えに広がりが見られた。また、西蒲原郡弥彦村立弥彦小学校の佐々木美里教諭が「まかせてね 今日の食事」の公開授業を行った。80歳のおばあちゃんという相手意識をもたせ、問題のある献立を提示したことで活発な話し合いが展開された。

【下越地区】では、「家庭科における言語活動の充実について」を主題に新発田市立天王小学校の増田佳子教諭が「バランスのよいお弁当を作ろう」～栄養満点！My 弁当作り～の公開授業を行った。弁当作りで大切なことを5つのキーワード(栄養バランス、色合い、季節感、おいしさ、自分の思い)に整理したことにより、キーワードが話し合いの観点となり、言語活動の充実をねらった授業としてふさわしいものとなった。

【新潟地区】では、新潟市立新関小学校の長谷川美紀子教諭が「これでばっちり！洗濯は任せて！！」の授業を公開した。子どもたちは、布の吸水実験やニンヒドリン反応の実験を通して、衣服の汚れ方の特徴や洗濯の必要性に気付いた。また、直前まではいていた靴下を手洗い実習したことで、家庭実践へつなごうとする意欲が高まった。

(2) 第51回全国小学校家庭科教育研究会全国大会秋田大会発表

11月21日(金)「アトリオン(秋田総合生活文化会館・美術館)」にて新潟市小学校教育研究協議会家庭部が関東・甲信越地区、新潟県代表として「全国地区研究発表」を行った。「できる喜びを感じ、生活をよりよくしようとする子どもの育成～かかわりを大切にしたい問題解決的な学習の工夫～」の実践事例を全国に向けて発信した。

(3) 実践意欲を高めるための家庭科指導の工夫

地域の伝統食を学び、食育の大切さを伝えるために地域の人から学ぶ調理実習を行っている。柏崎市では「いんころ作り」、三条市では「車麩を使ったおかず」、十日町市では「きのこを使った調理」、見附市では「見附の食材を使った1食分の料理」、燕市では「きんぴら団子、麦団子作り」、南魚沼郡市では「かぐら南蛮みそ、糸うりのごまあえ」、阿賀野市では「車麩の煮物、ひじきの減塩サラダ」、胎内市では「地産地消レシピ3品」の調理実習を行った。

2 家庭科教育の課題

家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることが教科の目標である。目標達成のためには、言語活動の充実を図りながら、生活に深く結び付いた実践、児童が関心をもつ教材の工夫と効果的な指導方法など、さらに授業力の向上を図る必要がある。